



MASDAGOLF JOURNAL

MASDA Tips

マスダゴルフが誇るクラブの数々。そのTipsを紹介します。



Tips 01

Studio Wedge M425



3種類の仕上げがある「M425」。プロにも愛好される鋼メッキモデル（ブロンズ仕上げ）は、鋼メッキをされたヘッドに特殊加工を施し、渋みを出したものを、使うほどに風合いの変化を楽しめます。



Tips 02

Studio-1 Putter



ロングセラーを続ける「STUDIO-1」。販売する過程で、表面仕上げの薬品の配合を変える、加工機械が変わるなど、少しずつブラッシュアップが行われてきました。発売以来、揺るぎない一番人気のパターです。

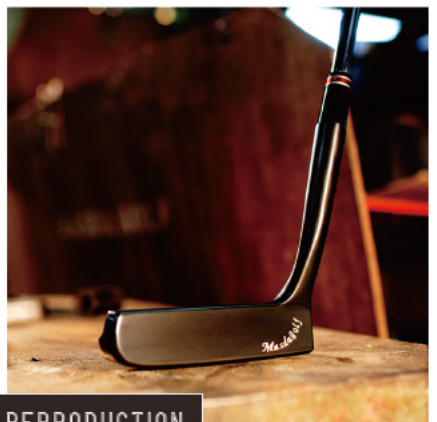


Tips 03

Fastmuscle Irons



マッスルバックとはこうあるべきと細部までこだわった渾身の力作。3番アイアンからPWまでのラインナップですが、実は1番と2番アイアンも存在します。カタログにも載らない特注仕様です。



REPRODUCTION

MASDA Putter TYPE-L

過去の名器の形状を活かした「TYPE-L」を新たに再設計。ヘッド重量を増し、より安心感のある強い線を持ったパターに生まれ変わりました。L字の操作感はそのままだ、現代の高速グリーンでも性能をいかに発揮出来ます。デザインも一新しました。



比類なき、その哲学 マスダゴルフが生む独創

マスダゴルフは不思議なメーカーだ。今年、なんと7年ぶりとなる待望の新作ドライバー「FBL」が発売になる。設計者である増田雄二が研究を重ね、ようやく世に出るものが出来たわけだが、そのテクノロジーを聞くと「企業秘密」（増田）と明かしてはくれなかった。

多くの場合、ドライバーはクラブメーカーの顔であり、ビジネス上は稼ぎ頭でもある。当然どのメーカーも注力し、1年ないし2年でモデルチェンジしている。ほとんどのクラブは、発売後2〜3ヶ月が売上のピークでその後は落ちていくから、ゴルフアを飽きさせないためにも、新モデルを断続的に投入するのが一般的だ。新しいテクノロジーや素材を駆使して、いかにそれが優れているかをアピールし続けている。

マスダゴルフはそんな喧騒とは無縁だ。納得できるまで新しいモデルが出ることはないし、ようやく出来たクラブの飛びの秘密を公開することもない。しかし、そのクラブでボールを打てば、明らか

な違いと優位性を感じることが出来る。

設立当初からのラインナップである「STUDIO-1」パターは、すでに十五年の長きに渡って販売されているが、今も注文が後を絶たない。現代のゴルフ界では異例のロングセラーを続けている。「良いものは変える必要がない」と増田雄二は言う。

「STUDIO-1」の製造工程を見ると、ロングセラーの秘密の一端を窺い知ることが出来る。機械加工で美しく削り出されたパターは、最後に熟練した職人が仕上げ研磨を行う。まるで命が吹き込まれるように、手作業で形が整えられていくのだ。人が使う道具だからこそ、人の目で見るとパターとして調和が取れているように作るという、マスダゴルフの哲学がそこにはある。

千葉県に自社工場を持ち、多くの工程はそこで行われる。そのため調整やカスタマイズはお手の物だ。ツアープロからの難しいオーダーにも日々応え続けている。そして、何よりも代表である増田雄

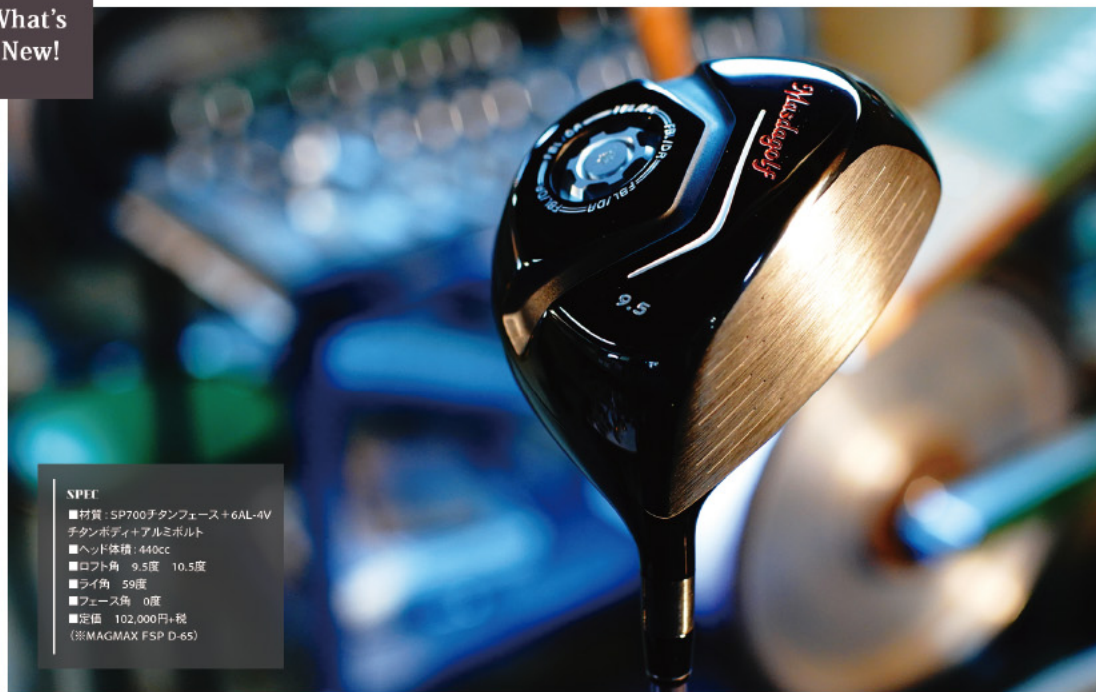
二自らが、毎日のように現場に立ち、自ら製作を行っている。おそらく増田ほど実際に多くのクラブを作っているクラブデザイナーは、世界にもいないのではないだろうか。そんな日々を増田はいつも「楽しい」という。

様々なゴルフメーカーが群雄割拠する現代においても、マスダゴルフは特異な位置を占めるメーカーだ。どこにも似ていないし、際立つた個性を持っている。そして何よりも違うのは、生みだされるクラブの数々だ。単に過去の名器を模した正統派ではなく、そこに独創的なアイディアがあり、強い主張がありながらも美しく調和のとれた形状があり、クラブとして高機能なのだ。

「良いクラブとは何か？」という問いに対して答えを求めると、マスダゴルフのクラブを見れば良い。クラブが強い弾道のイメージをもたらす、自然と良いスイングを促す。強い線で構成された、顔や鉄の質感は、道具としての信頼や愛着を生むだろう。実際にクラブに触れることが出来たら、この言葉の意味を理解していただけたらと思う。JGF2019がその機会になれば幸いだ。

ゴルフライター コヤマカズヒロ

What's
New!



SPEC
 ■材質: SP700チタンフェース+6AL-4V
 チタンボディ+アルミホルト
 ■ヘッド体積: 440cc
 ■ロフト角: 9.5度 10.5度
 ■ライ角: 59度
 ■フェース角: 0度
 ■定価: 102,000円+税
 (※MAGMAX FSP D-65)

マスダゴルフとしては7年ぶりとなる新作ドライバー、「FBL」がいよいよ発売を迎える。設計者である増田雄二が「誰が打っても飛ばし、振り切れる。申し分のない出来になりました」と胸を張るこのクラブ。発売前から試打会などに登場し、異例の注目を浴びている。その飛びのテクノロジーを聞くと「それはうちの企業秘密だから、言うわけにはいきませんね」とやんわり拒否。そのノウハウが明かされることはなさそうだ。

では、実際にクラブを見てみよう。構えてみると、マスダゴルフらしい引き締まったディープな“顔”に、

いかにも飛びそうな濃密な雰囲気を備えている。こうした見ための印象が、意外とゴルファーの心理に影響するものだ。近年は投影面積の大きなシャローバック形状が流行しているが、

「FBL」は厚みのあるハイバック。ドローでもフェードでも弾道のイメージがしやすい。

特筆されるのが打感の心地良さだ。フェースにくっついていて時間が長く感じられ、ボールをもうひと押しできる強さがある。小ぶりに見えるヘッドのため非常に振りやすく、これならドライバーが苦手なゴルファーも扱いやすいだろう。「振り切れるからボールを押し込めるんです。しっかりとボールをつかまえてパワーを凝縮した分厚いインパクトになる。飛んで曲がらないとはそういうことです」と増田は言う。

しっかりとつかまるが、左には引っかからない。ボールが上がりがやすいが、吹け上がりはない。相反する要素を備え、振れば振るほど飛ばしていけるスーパードライバーの誕生だ。

マスダゴルフ、7年ぶりのNEWドライバー『FBL』がついに発売!

グースネック と ストレートネック

マスダゴルフといえば、「グースネック」というイメージを抱くゴルファーは少なくない。これは「M425」ウェッジの印象が強いためだろう。現在も尾崎将司が愛用するこのモデルは、強いグースネックがボールをしっかりととらえ、それでいて左にいく感じは全くない。でなければプロが使えるはずもないのだが、グースネックはスライサー向けという定説は、このモデルには当てはまらない。

グースネックのメリットは、ラインを直線的にイメージできること。低く抑えたボールが打ちやすく、インパクトではボールを押してくれる感触がある。また、重心がより後ろにあるため、フェースの向きを感じやすい。スイング中にフェース向きを管理できていないゴルファーにとっては、グースネックのほうが好ましい結果になるはずだ。

ストレートネックの良さは、よりフェースを開きやすく、ロブショットなどのテクニックが活かしやすいことだ。より球筋を操作したいゴルファーならストレートネックのほうが扱いやすい。

キャビティ形状を採用し大ぶりに仕上げた「M425」はグースネックモデルに加え、昨年発売したストレートネックモデル「M425/S」もミスに強い高機能ウェッジだ。自分のプレースタイルに合わせて、選択して欲しい。



Information



有限会社 マスダゴルフ
 マスダゴルフ ショールーム
 〒276-0040
 千葉県八千代市緑が丘西1-5-1 ユニオンゴルフ緑が丘内
 TEL:047-750-7220、FAX:047-750-7221
 info@masdagolf.com
 ※ショールームの平日のご利用は《完全予約制》となりますので事前にお問い合わせください



三越日本橋本店
 マスダゴルフ ファクトリー
 〒103-8001
 東京都中央区日本橋室町1-4-1
 TEL:03-3241-3311
 営業時間:午前10時～午後7時



Interview

ジャパンゴルフフェア出展記念

増田雄二 (マスダゴルフ代表)

ショートインタビュー

—マスダゴルフとして初のジャパンゴルフフェア出展、おめでとうございます

出る予定はなかったんだけど、意外なきっかけが来たものですから。今は準備に追われていますよ。

—準備も増田さん自身が行ってるんですね

もちろんです。ハンドメイドのバナーも作るし、展示用の仕器も全て手作りです。大工仕事は得意だし、楽しいですね。

—マスダゴルフのブースの見どころを教えてください

うちは見せるものはないですよ。見せない、触らせない、打たせないの三拍子でいきたいですね(笑)

—冗談はやめてください。

本気にする方がいるかもしれませんよ

QP(関雅史)プロとのトークショーをやる予定です。あとは色んなブースもあるし催しもあるから、来場した方にまずは楽しんでもらいたいですね。その上で、こんなメーカーもあるんだということを知ってもらえると嬉しいです。

—たしかに、マスダゴルフのことをよく知らない人も多いでしょうからね。

だから、今回出展するのも宣伝することが目的じゃなくて。まずは手に取ってもらって、カッコよさとか重厚な雰囲気みたいなものを感じてもらって、このクラブでゴルフしてみたいなど思ってもらえるといいですね。

—新しいクラブだと練習したくなりますからね(笑)

構えてみて、球筋のイメージが湧いて、そしてボールを打ちたくなる。クラブに促されるように上達するし、ゴルフが楽しめる。そうすると開発者冥利に尽きます。上手いとか下手とかじゃなくて、使う人と作る人の心が通いあうような道具を作りたいと思っています。



代表 クラブデザイン・製作総指揮
 増田 雄二 (ますだ ゆうじ)

自動車関係のエンジニア出身、金型の設計、製作など金属加工のスペシャリスト。その知識を生かして開発考案したバナーを、当時全盛期だった尾崎将司のために改良を加えた「WOSS」を開発。空前の大ヒットモデルとなる。以降、尾崎将司のチーフデザイナーとして、ドライバーからバナーまですべてのクラブの開発・製作を担当した。

その後、クラブデザイナーとして独立し、2004年に「マスダゴルフ」を設立。トッププロとのやり取りの中で生まれた、常識にとらわれない独自の発想で、高機能・高品質のクラブを発表し続けている。

ゴルフ全般に造詣深く、本人も300ヤードを超える飛ばし屋。1962年熊本県生まれ。

MASDA GOLF